

平成 18 年度学術ポータル担当者研修レポート

奈良教育大学学術情報課

(No.13) 池尻 道彦

(No.14) 島田 茂

(No.15) 星川 泰子

1. 発表資料の状況設定

教授会の中で報告事項として、全教員を対象に説明を行う。リポジトリ構築についての学内合意はできており、試験運用を行う予定であるが、教員のリポジトリに対する知識はほとんどないと思われる。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

(1) 発表内容抄録

- 奈良教育大学学術リポジトリとは

学術リポジトリとは、学内で生産された学術研究成果物を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて、全世界に公開しようとするもの。学内の研究成果をデータベース化することで、教員個人のホームページで公開するものとは異なる。

- 他大学等の状況

平成 18 年 8 月の時点で 20 の機関がリポジトリを構築している。また、平成 18 年度の国立情報学研究所の CSI 委託事業に 57 機関が採択されているので、今後さらに増えてくる。

- 対象コンテンツ

既に各機関で公開されているコンテンツは様々であるが、本学では雑誌論文や紀要論文のほか、各種報告や発表資料等の様々なものをコンテンツとして収録することを考えている。論文だけでなく、音声や動画像も収録できるため、幅広い研究成果を公開できる。

- コンテンツの提供方法

Word や PDF の電子データがあれば電子メールで、動画像のデータであれば、CD-R や DVD-R で。紙媒体の電子化は学術情報研究センターで行う。

- コンテンツの著作権

収録にあたっては、単独著書の場合は著者本人の、共著者がいる場合は、共著者全員の許諾が必要となる。共著者の許諾は事前に得ることが必要。雑誌論文の場合は、出版社への確認等は学術情報研究センターで行う。

- 試験運用

平成 19 年 3 月の正式公開に向けて、提供いただいたものから登録を行い、試験運用を行う。

(2) 研修当日の講師からの助言

- 登録できるファイルの形式については、ある程度のリストを作成しておいた方がよい。
- 動画像については、ファイルサイズを確認する方がよい。
- 雑誌論文の出版社の例として Springer や Elsevier 等の例を挙げると分かりやすい。

(3) 研修発表との改訂部分

- コンテンツの種類や提供先等、研修時に不明確であったものについて、修正を行った。
- 著作権処理について、大学紀要等と雑誌論文等の 2 例を挙げて処理方法を明示した。
- その他、レイアウト等の微調整を行った。

3. 研修後の動向

本学では、学術ポータル研修を受講する時点で、既にリポジトリ構築についての学内合意が出来ており、研修終了後に学内でのリハーサルプレゼンテーションを行うことが出来なかったため、受講者間で協議し、発表資料の改訂のみを行った。

研修終了後は、学内の学術リポジトリ構築・運用チーム会議の中で研修の報告を行い、研修中に得た先行大学での事例等を参考に、リポジトリの構築を進めているところである。

また、奈良教育大学学術リポジトリは愛称を「**NEAR**」(Nara university of **E**ducation **A**cademic **R**epository) と定め、別添のチラシを作成し、学内外への広報を行っている。

11 月にはチラシによる広報と併せて、既に著作権処理を終えた大学紀要等の登録を行い、試験運用を始めた。(URL:<http://dspace.nara-edu.ac.jp:8080/dspace/>)

4. 今後の予定と希望

学内での合意はできているが、グッズ等を用いた広報活動の検討を行い、更なる認知度の向上を図っていきたいと考えている。

また、コンテンツの収集を積極的に行い、平成 19 年 3 月の正式公開に向けた取組を行っていきたいと考えている。